

令和6年第5回議会活性化特別委員会会議録

1. 日 時 令和6年10月9日（水）
2. 場 所 白井市役所本庁舎4階 大委員会室
3. 議 題 （1）議会改革に係る検討事項について
4. 出席委員 長谷川 則 夫 委 員 長・小田川 敦 子 副 委 員 長
柴 田 圭 子 委 員・古 澤 由紀子 委 員
伊 藤 仁 委 員・広 沢 修 司 委 員
平 田 新 子 委 員・徳 本 光 香 委 員
荒 井 靖 行 委 員・石 原 淑 行 委 員
久保田 江 美 委 員・武 藤 美砂子 委 員
岩 田 典 之 議 長
5. 欠席委員 秋 谷 公 臣 委 員・石 井 恵 子 委 員
田 中 和 八 委 員・石 田 里 美 委 員
根 本 敦 子 委 員
6. 会議の経過 別紙のとおり
7. 議会事務局 局 長 松 岡 正 純
主 査 補 會 卓 也
主 事 金 子 直 史

委 員 長 の 挨拶

○松岡正純議会事務局長 それでは、始めさせていただきます。

会議に先立ちまして、長谷川委員長より御挨拶をお願いいたします。

○長谷川則夫委員長 おはようございますじゃない、もうこんにちはですね。午前中の本会議終了後、御苦労さまでございます。本日は議会活性化プロジェクトチームのほうでまとめた案件を、中間報告ということでそれぞれ発表していただきますので、よろしくお願いいたします。

○松岡正純議会事務局長 ありがとうございます。

委員会会議につき、議事等につきましては長谷川委員長をお願いいたします。

会 議 の 経 過

開会 午後 1時01分

○長谷川則夫委員長 それでは、ただいまの出席は12名でございます。委員会条例第16条の規定により定足数に達しております。これより令和6年第5回議会活性化特別委員会を開会いたします。

本日の会議は、お手元に配付の日程表のとおりでございます。

(1) 議会改革に係る検討事項について

○長谷川則夫委員長 日程第1、議会改革に係る検討事項についてを議題とします。

それでは、それぞれのプロジェクトチーム、順番にということで、議会改革の取りまとめの順番に従って、まずは議会の議事録のA I 化のチームから発表していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

平田委員。

○平田新子委員 ありがとうございます。中間報告ということで、私たちは調べたことを申し上げるだけで、何も結論は出しておりません。こんなことを調べましたという報告です。

それで、この調査で終わりではないので、またこれから深めていかなきゃいけない調査もあるという前提で、資料はタブレットの中の4番目の資料になります。開けていただいたところで紹介させていただきます。

私どものプロジェクトチームは、平田、長谷川、徳本、根本、4名で調べております。確認事項といたしまして、アンケートを他自治体に投げかける前に、こういうことでアンケートをとすることはもう事前に皆様にタブレットにも入れていただいて御報告しておりますので、今日は結論のほうから先にいきたいと思います。

皆様にアンケートを投げかけた後からの進捗状況になります。あくまでこれは、右側に書いていま

すけれども、DX化は日々進化していますので、料金体系とかやれることとかが変わっていくという前提でお聞きください。

まず、先進自治体に導入経緯ほかをアンケートで調査するということで、約20ぐらいの自治体を選んでおりました。ここに関しては事務局のほうで、お手間ではあったんですけども、議会に入れているのか市全体で入れているのかというようなことを含めて調査をしていただきまして、結局下に書いております、山形県、福岡市、浜松市、奥多摩町、白川町、この5自治体に対して回答をいただきました。

2番目の項目は、アンケート結果から分かったことというのを簡単にまとめております。議事録の作成方法としては2つ、二極化あるということが考えられて、白井市ではAI議事録をまるで新規導入するという方法と、今まで委託してきた録音データを渡して文字起こししてもらったというのにプラスしてAI議事録をとという2つの方法が考えられると。実際アンケート結果でもそういう2つの方法を利用している自治体もあった、全面的に変えている団体もあったということです。

次に、AI議事録作成後にどんな作業が必要かということで、いろいろなそれぞれの結果をまとめて集約いたしますと、音声データを聞きながら文字の修正が必要なんですけれども、それをしゃべっている同時進行でやる方法と、同時進行ではなく後で聞き直ししながらやる方法。波線になっているのはその選択の余地が、どういう聞き直しの方法をするかは分からないけれども、結局文字の曖昧な修正が必要と。それで、例えば、「えー」とか「あー」とか、そういうふうなことが余分なものを排除するという作業が「不必要な文言の整理をする」という3番目の意味です。

4番目は、レイアウトとか、誰が言ったとか、書体を変えたりレイアウトを整理したりという装丁上の整理が必要ということであります。

ここに至る前に、辞書機能というのがあります。例えば、「ししば」がライオンの「獅子」で場所の「場」というんじゃないくて、「神々廻」と書くとか、そういうことをあらかじめ、取手市の場合ですと議事録を10年分ぐらい読み込ませて、なるべくそごがないような状態で、あとはその都度修正するという方法、いわゆるその自治体のカスタマイズとしてやっているところと、出てきた文字句の訂正ということで、辞書としてはその都度入れていってはいるけれどもという、そういう間違いを少なくする辞書機能についても方法がいろいろありますと。

それで、費用についてです。執行部で一括支出している自治体が多く、つまり総務課なり企画課なりあっちのほうで全部出していて、その中の一部を議会が使っている自治体もありますし、あくまで議会費の中でやりくりしている自治体もあります。それについては、白井市としてこういう想定で使いたいんだけどという見積りを全然取っておりませんので、現在回答でいただいたところとの比較検討はできていません。結局こういう形で、どこの業者にどういう見積りを取るかということを含めて今後の調査課題となります。

3番目、今後必要となる確認検討事項、今言ったことと重複しますけれども、1、どの範囲でAI

議事録を利用するのか。委託、あるいは委託と現在の状態とAIを連携させるという、いろいろな方法があるということです。

2番目、必要な費用の比較検討、費用対効果。これは見積書を取る必要がありますし、従来、白井市としてどういう状態でオーダーしているかというのは、今日資料に入れていただいていますよね。それは後で御覧いただくとして。

それから、3番目、どの作業をどのタイミングで誰が行うのか、先ほど議事録作成に同時進行で聞きながら修正する方法、後になって聞き直して修正する方法、いろいろある、そういうことの意味です。それも、事務局がやるのか、例えば、これは決まりでも何でもなく、そこでみんなで話した中で、何となく80%ぐらいの完成度のものが早く来た場合は、そこから委員長報告とかそういうものが出てくるわけだから、それぞれの委員会で修正を、この字は間違っているとか正す方法もあるしという意味では、必ずしもこれが事務局の職員ということではないということで、誰が行うのかも含めての検討を必要としています。

4番目、執行部と基本足並みをそろえる必要はない、これは以前回答いただいております。予算も足りなければ補正予算を出してくれて構わない。白井市を待っていると遅くなるから議会が先にやってくれてもいいというのは確認が取れています。しかし、やはり全体の予算の関係などから、議会費が今までと違って、最初の初期投資だけ上がるとか、そういうことも含めて執行部とすり合わせをしていくことは必要だと。

それから5番目、最終的に早く文字化したいのか、正確性を期するのか、改めて字幕のプロジェクトチームとの連携協議も含めて、目的を再度はっきりする必要があるなということを私たちは考えております。

下のほうの参考です。これは実は白井市に2つのアミボイスがお試しでどうぞということに来ています。デジ庁はトライアルしてから導入を決めてくださいということは以前から言っていますので、そういう意味で来ているんだと思いますので、この辺の説明については後で皆さんのほうからお願いしたいと思います。

ということで、その先の次の資料、4番目の資料が今いただいたまとめたものでした。5番目の資料は各自治体からの回答をそのまま寄せていただいた分です。詳細についてはそれぞれの自治体の特徴を見ながら、後で御覧いただければと思います。

それから、資料の5番目の2、現行の会議録作成契約手順というのは、今、白井市がどういう状態で作っているのかというところで、ここについては読んで皆さんに御理解いただきたいと思います。まず、会議をやっている最中に録音が取られています。この録音データが委託業者に行って、それで文字化される。それが来るのに大体14日間で納品される。これは年度替わりで委託業者が変わったりするときはちょっと日数に変化があることがあります。初稿が来た段階で、皆さんに字句の訂正があったらということで回ってきますよね。議事録を訂正してください、そういうのが回って、最終的に

完成するまでにはやはり2週間から20日程度かかっているという実態です。これによって委員長報告が作られたり、議会だよりの記事になったりするわけですが、最終日の分だけがどうしても入れられないという事情もここで発生してきております。

そういうことで、一応費用に関しては下のほうに書いてありますので、お読みいただければと思います。

全体的な説明は以上になります。委員長にお返しします。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございます。

先ほど平田委員のほうからありました、最後の参考のところは、この会議が終了後、皆さんで体験していただく機会を設けますので、そのときに説明とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

補足説明を求めたい方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

○柴田圭子委員 何をみんなに体験させてもらうんですか。

○長谷川則夫委員長 アミボイスを皆さんで体験していただきますので。よろしいでしょうか。

それでは、2つ目の……。

○柴田圭子委員 ちょっと待って。

○長谷川則夫委員長 柴田委員。

○小田川敦子副委員長 ではなくてすみません。今……。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 今、委員長がおっしゃった参考のところはという、その参考がどこかを探していて、わたわたしているんですけども。

○平田新子委員 資料4の一番下です。参考と書いてある。

○長谷川則夫委員長 一番下になります。

○小田川敦子副委員長 アミボイスというところ。ここが後からと。

○長谷川則夫委員長 はい、体験をしていただきますので。

小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 あと、4のところは今後体験するということなので、3の今後必要となる確認検討事項のところで質問してもいいですか。

○平田新子委員 はい、どうぞ。

○小田川敦子副委員長 この部分の検討はどういう形で進めていく予定ですか。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 うちのプロジェクトチームだけのことで申し上げますと、結局、費用の比較なんかができないからどこどこの業者に頼もうねといってまず見積書を出してもらわなきゃいけないとか、そういう作業が発生するので、今回だけでは報告が終わりませんというのはそういうことなんです。

今ここに書いているようなことを、この場合はどう、こっちの場合はどうと、いろいろな材料として皆様に次の報告のときに提供いたしますので、それを受けて皆様がこっちがいいねとか、導入したほうがいい、しないほうがいいとかいう検討をお願いする材料として、次の報告も必要としていますということがこの３番の内容になります。

○長谷川則夫委員長 小田川副委員長。

○小田川敦子副委員長 分かりました。今後検討予定ということで、その部分を共有したというイメージですか。

○平田新子委員 そうです。

○小田川敦子副委員長 分かりました。その次に、アンケートの取りまとめのところなんですけれども、アンケートの取りまとめの資料の項目が、何を質問して何の回答なのかという部分が伝わってこないで、そこを補足するものを後からでもいいので共有してほしいです。

○平田新子委員 私たちもこれを見ながら協議……。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 すみません、ちょっとページが後のほうになるのかな、一番上の欄に自治体名、山形県、福岡市、浜松市とか。

○小田川敦子副委員長 幾つかというの、つながっているんだ。

○平田新子委員 つながっているの、全部１枚につながっているんですけども。

○小田川敦子副委員長 ごめんなさい。

○平田新子委員 左端が質問項目で、それに対する自治体ごとの回答が出ているという見方になります。これを一つ一つ説明していると時間がありませんので、今日は取りまとめたこと、部分だけを紹介しましたので、詳細については御覧くださいという意味です。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

○小田川敦子副委員長 はい、大丈夫です。

○長谷川則夫委員長 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 それでは、次のチームの発表をお願いしたいと思います。録画に字幕をつけるチームの発表はどなたがされますか。久保田委員ですか、どうぞ。

プロジェクターを使いますので、少々お待ちください。

○久保田江美委員 はい、そうです。すみません。

プロジェクターを見ているときに、今ちょうど船橋市議会が多分中継されていて、恐らく字幕を見ることができるんです。この際、皆さんでタブレットとかで見ることは可能ですか。

御自身で「船橋市議会、中継」と調べていただければ、すぐ出てくるんですけども、よろしいですか。

○岩田典之議長 特別委員会をやっている最中にほかの市議会を、一旦休憩してからなら分かるけれども。

○久保田江美委員 それでももちろん。

○長谷川則夫委員長 よろしければ。

○久保田江美委員 どういう形かだけ、どんな感じか見ていただきたいと思っているんですけども。分かりました。

○徳本光香委員 久保田委員、これはタブレットの資料と違うものを映すんですか。

○久保田江美委員 一緒です。

○徳本光香委員 一緒だったらもう説明をぜひしてほしいんですけども。

○平田新子委員 こっちを見ていれば分かるから。

○徳本光香委員 映す必要ないと思います。パワーポイントのですね。

○久保田江美委員 そうなんです。

○徳本光香委員 では、こっちの資料をお願いします。

○平田新子委員 説明してもらって、準備できたらあっちもという。

○久保田江美委員 そうしましょうか。

○岩田典之議長 タブレットと同じ内容であれば。

○徳本光香委員 拡大もできるし。

○長谷川則夫委員長 ちょっと調子が悪いようなんで、タブレットで。

○久保田江美委員 すみません。申し訳ないです。

そうしたら、では説明させていただきます。お手元の資料の「録画配信に字幕をつけるプロジェクト」というPDFを出していただきたいと思います。

○岩田典之議長 座ったままで。

○久保田江美委員 大丈夫ですか。

○長谷川則夫委員長 座ったままでいいですよ。

○久保田江美委員 すみません。出していただけたらと思います。そうしたら、2ページ目をまず出していきます。調べてみたら、録画配信に字幕をつけている自治体というのは少ないということが分かりました。そして、このPDF、これ以外のもう1つ資料として、字幕をつけている自治体の一覧というのが隣の資料にあります。そちらも見ていただきながら。

○平田新子委員 すみません、資料7という部分ですか。

○久保田江美委員 資料7です。ちょっとこっちは私は分からなくて、こっちで見ているんで、パソコンじゃないんで分からない。ごめんなさい。資料7です。

○伊藤 仁委員 資料7、こっちか。

○久保田江美委員 大丈夫ですか。

○伊藤 仁委員 自治体のいっぱい書いてある一覧のもの。

○久保田江美委員 一覧が。

○長谷川則夫委員長 導入自治体数ですね。

○久保田江美委員 そうしたら、資料を御説明していきます。字幕をつけて、そうです、今、資料を見ていただきながら、会社が幾つかございまして、会議録研究所という会社は生中継の字幕のみ19自治体がつけられております。また、大和速記情報センターは生中継字幕のみが1自治体、UDトークを使用している自治体というのが、こちらも生中継字幕のみが14自治体、また、ライブと録画を1自治体は、京都府議会は試行中とあるんですけれども、私が見た感じでは使っていないようには見えませんでした。このように少し調べていきました。

次に、録画字幕より生中継の字幕が多い理由なんですけれども、やはり字幕というのは議事録が出来上がるまでの補完としての要素が非常に強いのかなと感じました。また、議事録が出来上がったなら聴覚障害者の方も文字で見ることができるためというのがあるかなと。

また、次に費用面なんですけれども、A Iを使った字幕作成のほうが費用が安く済みます。そして、聴覚障害者からは共に、生中継も録画もどちらもつけてほしいという要望はあるんですけれども、やはり上記2点のことを考えると、議事録ができるまで、もしくは中継配信のみというところが多いというのが調べて分かったことです。

では、次に誤変換についての対応なんですけれども、やはりA Iでリアルタイムで配信となりますと、誤変換があることを注釈として議会としてはつけています。ちなみに、幾つかの自治体に話を聞いたんですけれども、誤変換に対する市民からの苦情というのはないそうです。そしてまた、誤変換のあるかもしれない映像を残したくないという議会は、ライブ配信、生中継配信のみに字幕をつけています。

議事録の補完として使っている議会の場合も、議事録ができるまで録画配信に字幕をつけている、それ以降は字幕がついていない映像をつけています。そして、ライブ配信のみ字幕がついている議会は、配信会社のシステムによってライブ配信のみにしかつけることができない、録画のほうにはつけることができないという自治体もあります。

次に、白井市が現状のシステムで配信に字幕をつける方法というのは3つになります。1が議事録ができてから配信元の会社に議事録を渡して字幕をつけてもらう。これは録画配信に字幕をつけるという形になります。2番目が、配信会社にリアルタイム字幕をつけてもらう。会議録ができるまでの間、字幕付きの録画公開というのも可能になります。3番目が、市のほうでUDトークなどを入れて、A I議事録を取り入れて生中継配信に字幕をつけていくという形になる。録画のほうもつけられるのかもしれないんですけれども、ちょっとそこはもう少し研究していかないと分からないかなと思っております。

次に、費用面のお話をさせていただきます。当初話をしていた録画配信に字幕をつける、この場合

の費用というのが1時間当たり5,000円です。そして、調べていただいた去年の本会議の時間というのは98時間。5,000円掛ける98時間で約年間49万円、これは会議の時間にもよりますので、少し前後していくかなとは思いますが、このぐらいの費用面となっていくます。

次に、配信会社にリアルタイムの字幕をつけてもらう、そして会議録ができるまでの間、字幕付で録画公開も可能というのは川崎市が取り入れております。ジェイ・フィットといって、白井市と同じ配信会社を使われておりまして、この配信会社のライブ録画字幕付機能というのを利用しているそうです。速報性というのを重視しているので、リアルタイムの文字起こしをそのまま配信、文言の正確性から議事録ができるまでの間、暫定的に録画配信をしているということです。

導入の経緯というのは、新本庁舎への移転に伴って議会中継システムを一新することを契機として、情報アクセシビリティのさらなる向上のため、議員提案とか難聴団体、手話団体の要望などは導入検討時にはなかったそうです。

こちらの費用なんですけれども、リアルタイム字幕だけという別での費用を出すことができないと川崎市議会のほうからお聞きしまして、これは長期契約、令和5年10月から令和10年3月の5年間の長期契約で4,211万4,600円とすごく高い費用になっています。月額も77万9,000円という話でした。少しこちらは私のほうでも会社のほうで調べさせていただいたんですけれども、どうしても字幕をつけた録画とつけていない録画という2つのシステムが必要になっちゃうそうなので、多分結構高いお金になってしまうのかなというふうになります。

また、白井市で取り入れるためには、回線の状況によっては容量が足りないということもあるかもしれないので、さらなる費用がかかる可能性が高いというお話でした。

では、次に市のほうでUDトークなどのAI議事録を取り入れて字幕をつけていくというところですが。こちらは船橋市のほうへみんなで見に行かせていただいて、お話も聞かせていただいたんですけれども、システムはUDトークというAI議事録を使っています。こちらがリアルタイムの文字起こしで、文字起こしのみのため、画面と字幕は別で表示になっています。誤変換があるため、やはり生中継配信のみにして、職員の負担というのは自動生成のためにオンオフを出すだけなので、そのときの職員負担というのはほぼない状態です。

こちらなんですけれども、導入経緯は、聴覚障害者、手話通訳者からの要望があって、広報委員会の委員提案によって導入されたそうです。

費用については、イニシャルコスト、導入費用が5万円、ランニングコストについては年31万円となっております。

こちらは、また休憩中でもいいので、船橋市議会が今ちょうど議会中なので、見ることができます。よかったら少し見ていただくと。そうなんです。今、小田川副委員長が、こんな感じで出ますかね。こういう感じですね。

○伊藤 仁委員 字幕は字幕だけしか出てこない。

○久保田江美委員 そうなんです。出ない形となってしまって、映像とリンクはできない。

○伊藤 仁委員 映像とは一緒になっていない。

○久保田江美委員 どうしても……。

○長谷川則夫委員長 字幕と映像は分けていたよね。

○久保田江美委員 そうなんです。別という形になってしまいますね。横に出ている。

○柴田圭子委員 だから、リアルタイムで一応出てはくるんです。

○長谷川則夫委員長 中継の中継で。

○久保田江美委員 どんどん出てくる形。

○長谷川則夫委員長 画面と合ってる。

○久保田江美委員 そうですね。ちょっとこっちのほうが遅い感じ。

○岩田典之議長 見るなら休憩したほうがいいんじゃないですか。休憩して見たほうが。

○久保田江美委員 また、こちらはそんな感じということになります。

○岩田典之議長 ほかの議会を見るなら休憩したほうがいいんじゃないですか。

○徳本光香委員 久保田委員、さっきから休憩でやったらという意見が出ているので、そのまま見せちゃったらずいんじゃないでしょうか。

○久保田江美委員 分かりました。すみません。申し訳ないです。

そうしたら、では先ほどの資料です。では、ちなみにA I 議事録を導入した場合というのが使えないかという話なんですけれども、取手市、先ほどいろいろお話を聞いているので皆さん分かっているのかなと思うんですけれども、取手市の場合、議会中継というのは、うちの白井市とは違って、ユーチューブ配信のみで議会中継をしています。そのため、映像に字幕がついている状態です。

また、A I 議事録というのはリアルタイムで職員が校正をしているということがありますので、恐らく白井市の場合はリアルタイムでA I 議事録を字幕につけていくのは難しいのかなと少し考えております。

ただ、ここに関しても、やはりA I 議事録を取り入れて活用するということになると、映像の配信のやり方自体も抜本的に変えなければ活用することができないので、少し大きな話になってくるかなと思います。また、UDトークのように映像配信に字幕をつけるんじゃなくて、別に文字起こしをした字幕を配信するみたいなこともできるのかな、可能性はあるのかなと思いますので、ただこちらについても現状研究しないと分からないので、まだ未定のところではございます。

最後に、委員の皆様をお願いしたいことがございます。当初は録画配信に字幕をつけるプロジェクトを検討するということだったんですけれども、録画配信に字幕をつけることに加える、もしくは生中継配信、議事録ができるまでの補完として字幕という考えも視野に入れていただけたらなと思います。

また、リアルタイム配信、議事録ができるまでの録画配信に字幕をつけるとなると、当初話をして

いた文言の正確性という点は担保されなくなります。本会議における誤変換というのはかなり少ないということは考慮していただきながら、最後にまとめとして、こちらは皆さんに見ていただければいいんですけども、比較表を作らせていただきましたので、検討として持ち帰っていただけたらなと思っています。

そして、こちらは参考として、今回の字幕をつけるとは少し趣旨が変わってしまうんですけども、聴覚障害の方が議場に来たときというのは、今は字幕とか特にないので、本当に聞くことができない状態です。UDトークであるとタブレットの貸出し、また、御自身のスマホでリアルタイム字幕を見ることができる、また、議場に字幕用のモニターを設置、もしくは既存のモニターに字幕を映すという、こういったことを考えることができ、一応見積りだけは出していただいていますので、資料のほうにつけさせていただいております。最後については本当に参考なので、皆さんに見ていただければと思います。

以上でこちらの説明は終わりにさせていただきます。

○長谷川則夫委員長 ありがとうございました。

これについて補足説明は。

平田委員。

○平田新子委員 ちなみに、A I 議事録を導入した場合はということで、取手市を例として挙げていらっしゃるかもしれませんが、取手市がユーチューブでつけているのは、その前に議事録でカスタマイズしてあるんです。要するに、10年分の議事録である程度の正確性を担保した上でユーチューブにそれがついているので、単純にユーチューブにアップするときの正確性はもう全然、数段違うものだけということだけを確認しておきたいと思います。

要するに、取手市がやっているからといって、ユーチューブに字幕をつけて、取手市と同じ正確性はないということです。カスタマイズしない限り、ユーチューブだけで字幕をつけちゃうと誤変換がいっぱい出てくるということです。

○長谷川則夫委員長 それは質問ですか。

○平田新子委員 いや、質問じゃないので、そこがこの資料にきちんと書いていなかったのも、抜け落ちていて。

○久保田江美委員 補足で。

○平田新子委員 補足で、確認してくださいということです。

○長谷川則夫委員長 今、確認ということでありましたけれども、その点はどうですか。久保田委員。

○久保田江美委員 私のほうもA I 議事録のチームではないので、やはりそれは取り入れるとなった場合の話なのかなと考えております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 久保田委員、まとめありがとうございました。

補足でお話ししたいことがあります。このパワーポイントの資料の8ページの3、UDトークの字幕のところなんですけれども、UDトーク、見てもらえばすぐ分かるんですが、今回見てすごくいいなと思ったのは振り仮名がついているので、漢字が弱い方とかお子さんでも見られるというのが、議事録というだけじゃなくていい点かなと思ったということがあります。

あと、その3ページ後の「委員の皆さんにお願いしたいこと」というものなんですけれども、うまく伝わったのかなとか、これは久保田委員に確認なんですけれども、最終段階を見せてもらわずに完成だったんで気になったんですが、録画配信に字幕をつけるというのが、まず私が提案して承諾は得たところです。この1個目の文章なんですけれども、「録画配信に字幕をつけることに加える」と書いてあるんですが、これは録画配信に字幕をつけることという検討事項に、今回紹介したライブ配信、みんなほかの市が多かったライブ配信に字幕をつけることも加えるという意味でしたよね。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 そうです。録画配信にプラスして、また生配信をつける。もしくは、録画に対しては議事録があるから生配信だけつけるということも視野として入れていってもいいのかなと考えましたので、そちらも併せて柔軟に考えていただけたらなと思っております。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 この資料だと、ライブ配信への字幕をつけるという、一番大事な目的語が抜けているので、皆さんに追加をお願いしたいということです。

○平田新子委員 生中継はイコールライブじゃないんですか。

○徳本光香委員 ライブです。

○長谷川則夫委員長 柴田委員。

○徳本光香委員 あとまだ、すみません、発言を続けます。

○長谷川則夫委員長 ありますか。

○徳本光香委員 発言は続いています。すみません。それから、大事なことなので、3ページ目です。ここは修正してもらえませんでした。字幕より生中継のほうが、要するに簡単だから多かったんですよ。でも、私としてはここに、議事録が正確に出来上がったら、それも文字で見ることができるからライブ配信だけに字幕をつけているところが多かったようなんですけれども、議事録ができたからその映像に字幕がついてもついてなくてもいいというのは、今の白井市議会の状態からするとあまり進歩がないかなというふうに思っている。

それから1、2の下のところ、聴覚障害者からは共にライブの配信への字幕も録画配信への字幕もつけてほしいという要望があったというのがすごく重要だと私は思っています。ここは「あるが」といって否定する形の文章になってしまっているんですけれども、そこがすごく重要で、私としては録画に正確な字幕をつけるというのが一番の目的で提案していますので、そういう要望があったけれ

ども生中継が多いですというだけの訴えではないということを御理解いただきたいということです。

それから、私はA I 議事録のほうと今回の発表している字幕のほう両方に所属しているんですけども、ここで2つの中間報告をして思っていることが、両方融合する形になる可能性もあるということです。つまり、議事録を作る段階で、もし今回お伝えしたUDトークを使った場合、ライブでも議事録がほぼ9割以上の正確性で出てくるという可能性があって、それを採用するんだったらA I 議事録を作るというほうは別で頼むのではなくUDトークを使う可能性もあるかもしれないということです。

以上です。

○長谷川則夫委員長 質疑になりますか。

伊藤委員。

○伊藤 仁委員 これは委員会の中のプロジェクトチームの中での話を今やっていますよね。

○長谷川則夫委員長 そうですね。できればプロジェクトチームはプロジェクトチームでまとめた話を中間報告していただきたいんですよ。

○伊藤 仁委員 それだと、中でお話をしていただきたい。

○長谷川則夫委員長 プロジェクトチームの中での話合いをこの委員会の中でされると、私たちも困るので。

○徳本光香委員 いや、困らないでしょう。

○長谷川則夫委員長 徳本委員。

○徳本光香委員 今回、中間報告でこういう悩みも含めて共有しているというのは、もうこのまま結論までプロジェクトチームの中で出してしまうと、なぜ録画映像の字幕という話にライブの映像への字幕の話が加わってしまっているのかというような、話が変わってきているということへの疑問を持たないでもらいたいという意味で、久保田委員も、実際に多かったのはライブ中継への字幕なんです。そういうものも障害者の団体とかは求めているし、なので録画中継だけじゃないものも検討に入れてほしいよというお願いを書いているんですよ。だから、最後にいきなり検討事項が変わっているという誤解を生まないために、ここで内部での悩みと検討事項を追加するということもお願いしているところです。

○長谷川則夫委員長 平田委員。

○平田新子委員 久保田委員と一遍すり合わせしたんです。それで、2つのプロジェクトがあるけれども、それぞれ調べていることは別だから、ここはそれぞれがやったことを別々に報告しましょうということで。私たちA I 議事録のほうは、事前にこの報告書1枚ものにして、修正があったら言ってくださいといって修正したものが今日になっているんですが。言い訳になるけれども、私たちは柏・鎌ヶ谷で昨日もおとといも白井を離れていたというので、徳本委員の修正してほしいところが反映できてなかったから今多分補足説明として徳本委員が言われたのかなと思いますが、本来はこちらのチ

ームも全部まとめた形でスポットを出す予定だったということだけを説明しておきます。

○長谷川則夫委員長 中間報告ですから、できればプロジェクトチームの中でまとまったことを報告していただきかったんですが、ちょっとプロジェクトチームの内部の話になっていますので、今後の検討事項にしていきたいと思います。

ここで出てきたことから、この先の調査研究の方法が変わってくる可能性もありますけれども、それぞれ研究をさらにしていただいて、もしかしたら、ここは私のほうで言えませんが、A I 議事録と録画との連携が必要になってくる可能性も出てきたなと私は思っています。ですから、それらを踏まえて調査研究を今後行っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

ほかに質疑はございますか。

○伊藤 仁委員 1点だけ確認させてもらいます。議長に御確認したいんですけども、目の不自由な団体とか耳の不自由な方の団体から、議会の放送、中継に対して、何か文書的なものを頂いたことはあるんですか。

○長谷川則夫委員長 岩田議長。

○岩田典之議長 ございません。

○伊藤 仁委員 承知しました。

○徳本光香委員 それを報告しないと、あしたのこと。

○長谷川則夫委員長 久保田委員。

○久保田江美委員 多分要望は来ていないようなんですけども、あしたの10時から、こちらの大委員会会室のほうで、聴覚団体の方にお話をお伺いする予定でして、実際のところどうなのかという話を本当はここに入れたかったんですけども、あしたなので、もしお時間がある方でしたらいらしていただけたらなと思っております。

以上です。

○長谷川則夫委員長 柴田委員、何かありますか。

○柴田圭子委員 そのことです。

○長谷川則夫委員長 よろしいですか。

では、ほかに質疑はございますか。

徳本委員。

○徳本光香委員 先ほどの字幕の発表で、最後をお願いしたいことという、11ページ目です。本来提案したのは録画映像への字幕をつけるというだけのことで、皆さんはプロジェクトチームにゴーサインを出していただいたんですけども、実際に多いライブ中継への字幕というのも、一応調べる中に、検討する中に入れてもいいでしょうかというお願いなんですけど、それについて皆さんがよろしいかどうかというのは確認したいです。駄目ならその検討もできなくなっちゃうので。

○長谷川則夫委員長 今、徳本委員のほうから、最初は録画映像に字幕をつけるということで皆さん

にお伺いしたんだけど、ライブもしくは同時進行で字幕をつけるということに調査項目を広げていいかという御提案がありましたが、よろしいですか。

平田委員。

○平田新子委員　たくさんの中からいいものを選んだほうがいいので、調査範囲は広げていただいていいと思います。

○長谷川則夫委員長　調査範囲を広げるということに関してはよろしいでしょうか。御意見がないんですけれども、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長　では、さよう決定いたします。

それでは、3番目のタブレットの使用方法に関するアンケート調査結果について御報告をさせていただきます。サイドブックの3番目の「アンケート集計」というのを御覧ください。

○柴田圭子委員　3－1のほうですか。

○長谷川則夫委員長　何ページかにわたっていますけれども、皆さんにアンケートをお願いして出していて、項目別に数字、あるいは皆さんからいただいた意見を整理した結果になっています。この時点でまだ提出されていない議員がいますので、途中経過だということは申し上げておきます。

それで、特に使っていない項目、2ページ目を開いていただきたいんですけども、写真撮影の利用頻度というのが非常に低い状態となっています。

また、次のページを見ていただくと、要望のほうはいろいろばらつきがあるんですけども、多かったのは、W i - F i 以外でも使えるようにというのと、議会活動、議員活動に役立つソフトウェア、アプリなどを充実してほしい、こういった意見が見受けられました。

もう1つめくってください。これは最後ですね。もう1枚のほう、すみません、サイドブックの戻る機能を使っていただいて、次の別紙のほうを御覧ください。

皆さんに記述式でいろいろ意見を述べていただきました。この中で意見が分かれたのが、最後のほうになりますけれども、「議会の連絡ツール、L I N E W O R K S等を導入することについて」というところを御覧いただきたいんですけども、現在のところ皆さんの意見にばらつきがございまして、集約するということまではいっていません。今後もアンケートを踏まえて、委員会の中でアプリをどうするかとかいう議論が必要だという状況ではありますが、基本的にはタブレットを使用しながら紙の媒体も利用したいという要望がどうやら多いようなので、完全にペーパーレス化というのはちょっと先のほうになるのかなという感想を持っています。

まだアンケートを集計したばかりなので、これについてはもう一度小田川副委員長と相談をして、どういうふうにこの委員会で取り扱っていくかについては議論をさせていただきますので、今日は御覧いただくという程度にしておきたいと思います。

今日、それぞれのプロジェクトチームから途中経過を発表していただきました。それで、これにつ

いては今後もプロジェクトチームでそれぞれ検討していただきますけれども、御意見等ありましたら私なりプロジェクトチームの長なりに皆さんの御意見を寄せていただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ということで、最後のタブレットの報告に関するところで御質問があったら受けますけれども、ございますか。

○伊藤 仁委員 この先の進め方。

○柴田圭子委員 この先どうする。

○小田川敦子副委員長 それはまた長副で話をして、またどうするのかは御提示させてくださいという結びでしたけれども。

○長谷川則夫委員長 特に意見がばらついているものが結構ありますので、なかなか難しいところありますけれども。

平田委員。

○平田新子委員 小田川副委員長と委員長で話し合っということではあると思うんですけれども、例えば、これを言った人はAという項目が一番人が多かったから多い人のことに、そうすることにしましようというのと、それ以外の人の意見が、全然意見も言えないまま、理由も言えないままとかなるので、多いからこれにしましたという結論だけにはならないようにちゃんと……。

○長谷川則夫委員長 結論はしませんよ。要は、この項目について皆さんで協議するという設定の下に考えていきますので、そうしないとこの項目は片づきませんので。要はタブレットについて見直すという項目なので、どういうふうに使っていくのか、あるいはどういったツールを入れるのかというところがありますから、それらを検討して皆さんにお諮りしたいと思います。よろしいでしょうか。

○平田新子委員 はい。

○長谷川則夫委員長 では、ほかに何かございますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○長谷川則夫委員長 議長から何かございますか。

○岩田典之議長 ございません。

○長谷川則夫委員長 それでは、事務局から何かございますか。

○松岡正純議会事務局長 ございません。

○長谷川則夫委員長 では、ないようでございますので、以上で本日の日程は全部終了しました。

よって、議会活性化特別委員会を閉会いたします。慎重なる御審議をいただきましてありがとうございました。

閉会 午後 1時49分

以上、会議の顛末を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

令和6年 月 日

白井市議会活性化特別委員会委員長